

ぐんま経済新聞

とん 計問らば、れツイ眼込な らでルま心て胃院し橋毛

「助けたい気持ち」大切に 国際的な応急手当法講習

オルカス 柴山さん

市民が行う応急救護法習の普及に乗り出す。医療・福祉関係者のみならず、一般企業の社員研修にも役立つ内容としてアピールしていく。

元看護師の柴山さんは、MFAジャパンの養成講座を受けて昨年11月、インストラクター資格を取得。大人にも応用可能なMFAの小児向けプログラム「チャイルドケアプラス」を、「ふれあい、いきいきサロン わんだふる」(同市若松町)で2月から、月2回のペースで実施している。



ビデオ視聴と実技を繰り返して身に着ける。右が柴山さん

の視聴と、人形を使ったスキル練習を交互に繰り返し、AED(自動体外式徐動器)の使用を含む救急法、蘇生法を効率的に学べる点。「救いた」という気持ちを実行に移せるよう、モチベーションを上げることに重点を置く。救助前の安全確認や感染予防、手当後の心のケアなど、救助者自身にも配慮がなされているのが特徴。

少人数制が基本で、講習所要時間は7〜8時間。国際的に通用し、2年間有効な修了証が交付される。これまでの講習は、保育士や看護師、子育て中の母親らが受講。「自信が付いた」などの声が寄せられているという。

一方、オルカスは企業向けITシステムを手掛ける中、事業所やビル単位で普及しつつあるAEDに着目。「有効活用するには講習が必須。MFAで学べば受講者の自信にもつながる」(貝瀬社長)とMFA推進室を4月に設置。貝瀬社長が高崎在住でもある縁で、柴山さんをフリーの室員に据えた。

今後は柴山さんを中心に、MFAの普及に注力していく。受講料は1人当たり標準価格1万5750円だが、人数や会場により引き下げが可能。貝瀬社長は「これから広がり期待できるプログラム」と話し、柴山さんは「一人助けができる、善意のやじ馬を増やしたい」と意欲を語っている。問い合わせはオルカスへ。03-6852-1321